

地域社会における生活と意識

—— コミュニティ形成を中心に ——

佐々木 篤 信

目 次

- I. 問題の所在
 - 1. 地域社会と生活
 - 2. 生産と消費の分離
 - 3. 生活の社会化
 - 4. 共同化への途とコミュニティ
- II. 調査の目的と方法
 - 1. 調査の目的
 - 2. 調査の方法
- III. 調査の結果と若干の傾向
 - 1. 対象地域の特性
 - 2. 結果と傾向
- IV. ま と め

I. 問題の所在

1. 地域社会と生活

今日、「地域」あるいはそこでの生産と消費をめぐる活動としての「生活」が、各方面から新たに問題とされ、注目されている。「コミュニティ」形成に関する学界や社会一般の関心は、その中の一つの中心的な位置を占めるものともいえよう。しかもそこでとりあげられている「生活」は、単に生計・暮らしといった狭い意味での「消費」、すなわち物質的・経済的なものだけでなく、人間が生物体として自然との物質代謝過程において生存・存続することの総体的な認識をも含んでいる。更に、「生活の充実化」と表現されるような、より人間的な生き方といった精神的・文化的な領域をも包み込むものともなっている。

現象として問題とされていることを列挙すると、生活の場における「人間性」「共同」「連帯」「公共性」「心のきずな」「孤立・孤独感」「個人主義化」「打算性」「住民の異質化・多様化」等々である。これらはいずれも1960年代の「経済成長」のなかで大きく取りあげられた「経済」「技術」「開発」といった領域とその位置を異にしていることがわかる。この新たな傾向が、経済の「高度成長」末期において表面化し、広く意識されるようになってきていることに注目したい。

すなわちこれらの諸現象は、世界も目をみはる経済領域での急激な「発展」が結果した社会的・生活領域における否定的な事態と表裏の関係においてとりあげられてきたということである。それは現代における新たな「貧困問題」としてクローズアップされているものである。「生産」の領域におけるコントロールという資本制社会の現代的課題と並んで、今

やこの「消費」の領域、すなわち上述の「生活」全体と結びついた「消費」の領域においてそのコントロールを大規模におしすすめることが、生産のあり方との関連においても不可欠のことになってきているということがいえよう。

今日各方面でコミュニティの形成がとりあげられる時、こうした日本社会の巨視的な視野においてではなく、また従って生産や労働の場における活動ときり離れた単なる余暇と消費の場だけがとりあげられる傾向のあることも、あらかじめ注意しておく必要がある。

2. 生産と消費の分離

この変化をひきおこした背景として先ず指摘されねばならないことは、資本の巨大な蓄積を背景とした産業構造の急激な変化であろう。もちろん今日にあっても日本の地方都市、農村における零細自営業層は根強く存続させられてはいるが、しかし戦後6割近くを占めていた自営業主層がすでに30パーセントを割るところにまで激減し、逆に賃労働者階級は戦後の30パーセント台から60数パーセントを占めるにいたっている。こうした小商品生産者層の資本——賃労働関係への分解は、都市社会において生産と消費の分離、すなわち生産の場と消費の場が時間的にも空間的にも明確に区別されるという事態を生み出すに到っている。

一方では生産と消費の分離は、企業における集団・社会関係ばかりでなく、消費生活の場としての家族および地域集団の諸関係をも大きく変えることになっていた。かつての狭い局限された家族・共同体における持続的・人格的な諸関係は、特定の目的機能を遂行するべく分化した多種類の一時的で非人格的な諸関係に移ることになっている。職場と居住を往復する生活は、家庭を「マイホーム」として仕事とは別の世界として意識することを結果すると同時に、それを単なる「寝どこ」として地域社会におけるコミュニケーションを形式化・非人格化させるものとしたのである。「人間性」「共同」「連帯」の要求が叫ばれることになる一つの所以である。

しかし、生活の場における「孤立」「孤独感」「連帯感の欠如」「不満感」「無力感」といった「人間性喪失」「疎外」の現象が、単に心理的なレベルでのみとりあげられている限り、その真の解決に向けた方向性が見出せないことも近年指摘されているとおりである。1960年代末からの行政側が提起してきたコミュニティづくりが結局はそのようなものになっていた。住民の生活問題への切り込みを避けたところに新しいコミュニティづくりはあり得ないということである。この点を明らかにするには、生産と消費の分離とともに生じてきていた他の側面をみておく必要がある。それは住民運動や市民運動の高揚と共に注目されてきたところであった。

3. 生活の社会化

大都市居住地域における交通事故やマヒ、公害、住宅難、上下水道の不備、環境衛生の

劣悪化等々の都市問題の深刻化は、先ず当の被害者・関係者を中心に「私的に」とりあげられ運動化した。それがより組織化されて、1960年代後半以降には全国各地で地域住民運動・市民運動の高揚として活発に展開されることになり、併行して自治体闘争、自治体運動も大きなものとなってきたのである。その背景には生存や生命にかかわる自然と人間との共生共存関係の破壊という深刻な問題をはらみつつ、都市への人口集中と大都市における人口の郊外化等による都市的公共施設の絶対的不足及び生活様式の変化に伴う新たな要求にもとづいた相対的不足という事態があった。この事態に十分対応できない行政のあり方が深くからんで、先の運動が一層拡大することにもなったのである。

すなわち、生産と消費の分離が結果するそれぞれの領域における専門化された組織・機関は、企業と居住地域とを問わずますます大きなものとならざるをえなかったともいえる。「資本の論理」を背景とした都市的生活様式が都市と農村の境界をとり払ってしまうことによって、消費生活における自家処理は共同の処理へ、しかも住民自らによる相互扶助的共同処理から専門機関による専門処理システムへの移行が生じてくることになったのである。生活の社会化は、このような住民の生活に不可欠な共同的・社会的な処理を必要とすることが多様なかたちで拡大してきていることに現われている。すなわち地域生活に不可欠の用水・道路の整備、廃水やごみ・し尿処理、更に教育施設、公営住宅等の社会的共同消費手段に対する要求の絶対的・相対的増加ということである。これらは選択の自由な、あってもなくてもよいものでなく、今日の到達された文化のなかで生活を維持するためには欠かすことのできないものとなっているところに事態の深刻さがある。

こうした今日の新たな事態にあって公的機関、とりわけ地方自治体の果たす役割、そのあり方のもつ意味が一層大きいものになってきていることが注目されよう。住民の全生活の社会的再生産を新たな生活様式水準において維持し向上させるために、自治体が、そこに生じてくる諸問題の私的レベルをこえた解決にとって不可欠な位置を占めることになってきているのである。ここに「資本の価値増殖」に強く規定された公的機関のあり方と、住民の「生活」を土台として要請されてきている公的機関のあり方との矛盾がかつてなく強いものとして生じてくることにもなる。そして同時に、生活主体としての住民がこの公的機関のあり方にどうコミットするのかという過程の問題が、私的レベルでの利害の対立の社会的・全体的な解決方向と結びついて生じてくることにもなったのである。コミュニティ形成はこの点を重要な契機として内包している。

4. 共同化への途とコミュニティ

地域住民が今日ますます共同的・社会的問題解決の必要に迫られてきているとはいっても、実際には先に心理的レベルでとらえられたような現象が少なからずあるのが実情であろう。人々の価値の多様化が論じられ、また地域における住民相互のつながりの希薄化、無関心、孤立といった状態が嘆かれることも少なくない。個人相互の激しい競争・闘争と

いったものはさらにその枠を広め、地域における集団・組織をもまきこんだものにさえなっている。しかしこの事態は、対立しながらお互いに補い合う「全面的な物質依存の体制」としての資本制社会における基本的な問題解決方法でもあったのである。この私的な利害の対立にふりまわされる自己の姿・生き方・行動の仕方に疑問や不快感を感じる地域主体の形成や、新たな「生活の充実化」を求める声は、「生きがい」「人間的に生きること」の意味を相互の間においても考えさせるに到っている。生存の権利、人格の尊厳、主権者としての意識・感覚はごく日常的な生活と行動のなかにしだいにはっきりとした位置を占めるようになりつつある。

こうした主体の側の変化と密接に関連して、私的・個人的な問題解決の限界を思い知らされることになり、共同の社会的解決が志向されてきた。集団や組織のレベルにこの枠を広げたとしてもなお集団・組織相互間の矛盾は解決されない。「地域エゴ」や「集団エゴ」といわれる現象が、悪意をこめて強調される場合でなくても、より広範な住民の納得いく過程と方向性において獲得されたあり方に照らせば存在し得ることは事実であろう。しかしそれを単に「エゴ」として排除し拒否するのではなく、地域生活の現実にある相互の利害の対立・矛盾を直視し、その解決の方向を、住民自身の主体的・連帯的活動のなかに見出す努力が重要なのである。こうした過程を経ることによって、地域における社会的生活の全過程を、その住民の意識的・計画的な制御のもとにおくための基礎がつくられていくということができよう。

コミュニティ形成は、住民一人ひとりのあるいは所属する組織集団の利害を無視したり抑えたりすることによっては、内実をもたないものとなろう。と同時に住民が自己、あるいは所属する組織集団だけの利害のみを主張することしかできないという状況においても、同様に不可能である。住民の「生活」を土台とするということが強調されればされるほど、今日においてはその住民相互の利害のちがいをお互いにはっきりさせながら、その調整や働きかけの方向を相互の納得いく方法・手続きで、またあらゆる可能な場・レベルにおいて模索すること、またある段階では決断することが必要となろう。この意味でも住民の生活に直接的なかわりをもつ地方自治体の果たす役割の重要性が指摘されなければならない。

一方では今日公的なもの、社会的なもの、共同的なものという名のもとに、特定の私的利害や特定階層・企業の利害が追求されることへの監視と規制の力が要請されている。しかし他方、話し合いによる合意形成や相互の利益の尊重によってすべての利害の対立が解決されることがないとなれば、住民に依託された公的機関としての自治体や政府の機能が大きな位置を占めることは不可避となろう。「より人間らしく生きる」という現段階での生活の社会的再生産が、社会構造それ自体の変容・変革をひきおこしていることに注目すべきである。自治体・国政レベルの政治的变化はむしろこの過程との関連においてみることができよう。この意味においても、住民が相互に共通する目標や手段を求めつつ、その成果の配分をめぐる共同的な認識・関係・結びつきを形成しそれを拡大していくような

生活主体に成長していくということが、コミュニティ形成の基本的条件であるといえるのである。

II. 調査の目的と方法

1. 調査の目的

以上の問題意識の下に、本調査は地方都市・会津若松市を対象に今日の激しく移り変わる地域社会の新しい課題やあり方をさぐることを目的としている。とりわけ都市部における地域社会の急激な変化は特定地域といえども、同じ住民という言葉では包みきれないくらい多様は関心、利害をもった人達の集合体と化している。そうであればあるだけ、地域社会の細部にわたる現存の利益の差異や相互の矛盾をむしろ率直に、客観的に洗い出す作業が重要になってくるのである。そのなかからはじめて今日の地域社会の課題がより具体的なものとして把握されることにもなる。

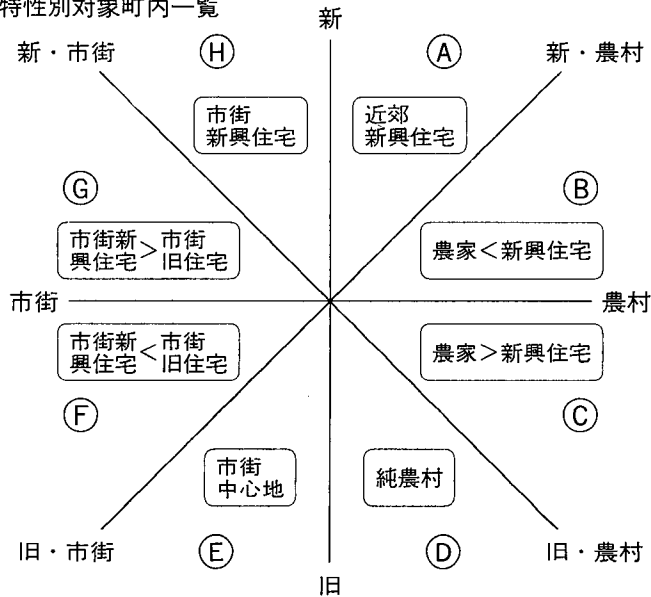
コミュニティ形成はこうして、地域住民の現実のなかにある事実をおおい隠すことなく相互に確認することからはじまるのであり、その課題の解決に向けて住民自身が考え行動することを通してその連帯と共同の輪を広げていく過程であるともいえよう。その際、住民の一人ひとりが何を「自分にとって大切なこと」として意識し生活しているのか、どのような特定地域のひとがどのような物の考え方・感じ方をするのか、更に個人をとりまくどのような属性がそこにもっとも大きな要因として作用しているのか。このようにして住民一人ひとりの関心・欲求の内容・水準の規定要因を明らかにしていくことが課題となろう。本調査は、町内会・自治会レベルにまでおいてこうした住民の日常生活の実態と意識をさぐっていくことを目標としている。

今回は中間報告として、若干の傾向性を指摘するにとどまらざるをえないことをあらかじめおことわりしておく。

2. 調査の方法

本調査は「会津若松市住民意識調査」として、昭和53年9月に会津若松市内の町内会・自治会（以下町内会と表わす）を以下の2つの基準に基づいて選定し、その戸主を悉皆調査したものである。選定基準を説明すると、先ずどのような地域（場所）にある町内会であるかということで横軸には市街地と農村を極としてとった。もちろん今日では農村と都市の文化的連続性は指摘されておりであるが、地方都市においてはこの基準がもつ意味は依然として大きいといえる。次に縦軸には昭和30年を境としてそれ以前から住宅地となっていたところを「旧」、それ以降に新たに興ったところを「新」として極をとった。両軸の交差してできる4区分のそれぞれを更に図のように2分し、計8町内会を対象としている。

図1 地域特性別対象町内一覧



時間と予算の関係上、各町内会の規模は、50～80戸とし、質問紙による郵送調査法をとった。535の郵送に対し、352が回収され、回収率は65.8パーセントである。各町内会の郵送数と回収数は次のようになっている。

表1

町内会	A	B	C	D	E	F	G	H	計
郵送数	80	59	74	79	64	59	67	53	535
回収数	54	31	56	50	34	43	49	35	352

本調査の基本的視点と調査票各質問項目との関連は、次のように表示することができる。

	住民の意識と行動	質問項目番号
1. 地域	1) 地域志向性	5, 8, 9, 10, <u>11</u> ,
	2) 町内会へのかかわり	13, 14, 15, 16, <u>17</u> ,
2. 住民	3) 自主性	<u>18</u> , 22, 23,
	4) 連帯性	1, 2, 3, 4, <u>12</u> ,
3. 生活	5) 生活関心	<u>6</u> , 7, 26, ,
	6) 運動	<u>19</u> , 20,
4. 政治・行政	7) 政治・行政への関心	21, <u>24</u> , 25,

※ □は重要な設問

Ⅲ. 調査の結果と若干の傾向

1. 対象地域の特性

以下に概観する対象地域の特性は、あくまでも調査対象者（世帯主）を中心にみたものである。

（地域A）

年齢は30歳、40歳の若い年代が多く、子どもの年齢も特に小学校までが多い。短大・大学卒の割合が2割以上と高く、職業は会社員35.2%、公務員22.2%も他の地域に比べ多くなっている。「県内」（会津若松市及び近隣市町村以外の。以下においてもこの意味を表わす）出身者と県外出身者の合計が4割以上と多く、8割近くの人が5年未満の居住歴という新興住宅地である。自家（持家）は94%ともっとも高い割合の地域となっている。

（地域B）

年齢は各年代平均した割合となっているが、子どもの年齢は15歳以上が多い。配偶者のいない人が29%とやや多くなっている。職業は、会社員、自営業、公務員がいずれも2割以上ではほぼ同じ割合になっている。自営業が25.7%と他に比べて多く、自由業の9.7%も比較的高い割合といえる。出身地は2人に1人が市内で隣接市町村を加えると8割になる。居住歴は20年以上が35.5%と少なくない。かつての農村地域に入ってきた住宅地ではあるが、今や交通量の大きくなった表通りは商店街化し、農業はまったく副業的なものとしてその裏側にかくれてしまった感がある。6割以上が自家（持家）で、民間アパートも1割近くある。

（地域C）

年齢は40歳、50歳代に6割と多く、特に50歳代は35.7%で他に比べもっとも多いところである。子どもの年齢も15歳以上がかなり高い割合となっている。学歴では短大・高専・大学卒が18%とやや高い。「ほとんど農業」が23.2%で、かつての純農村に近年次々と新しい居住者（通勤者）が入ってきている地域である。出身地は46.4%が市内となっているが、もともと土着の農家といえる。「県内」及び県外の出身者も25%と少なくはなく、また居住歴は20年以上が42.9%と多いが、同時に10年未満も46.4%と多く、新旧の入り混った農家と住宅との典型的な混住化地域といえよう。持家（自家）は8割と高い。

（地域D）

年齢は40歳、50歳代がそれぞれ3割以上と多く、60歳以上も2割と少なくない。従って対象者の子どもの年齢では、8割が15歳以上となっている。学歴は義務教育卒が74%と多く、高校卒は2割と少ない。純農村ではあるが、「ほとんど農業」は58%となっている。近年の兼業化の動きのなかで、自家用車で通う人が増えたことによる。出身地も74%が市内（現住地）となっている。居住歴も20年以上が9割と特に高い割合を示している。居住形態が持家（自家）94%というのも純農村の特徴である。

(地域E)

年齢別では、20歳代の5.9%を除けばどの年代も2割以上を占めている。職業では会社員が38.2%、自営業29.5%となっており、他の地域にくらべもっとも高い割合を占めている。昔ながらの商店街であることを示している。出身地は市の中心街とはいえ、5割強が市内であるにすぎない。「県内」及び県外が意外に多く、29.4%と3割近くを占めている。従って居住歴も、20年以上が58.8%と比較的多くはなっているが、10年未満も26.5%で、市街中心地の移動の激しさを示している。居住形態は、自家(持家)と借家がそれぞれ4割台で同じ割合だが、他と比較すると借家の多いことが特徴となっている。

(地域F)

年齢では、40歳代と60歳以上でそれぞれ32.5%と高い割合を占めており、50歳代を加えると9割をこえる。子どもの年齢も15歳以上がほとんどとなっている。職業では、無職が25.5%と比較的高く、会社員と自営業が共に20.9%で、自営業が比較的多い。出身地は、「隣接市町村」が34.8%ともっとも高い割合となっている。しかし居住歴では、同じ市街でも中心地の地域Eより20年以上の割合は高く、69.7%となっており、10年未満も10数%とわずかである。居住形態では借家が39.5%と比較的高いことも目につく。

(地域G)

この地域では、性別で女の割合が44.9%と他の地域よりもかなり大きくなっていることが注目される。配偶者のいない人が24.5%と高い。年齢は、40歳代と60歳代が多く、30歳代も18.4%と少なくはない。子どもの年齢は15歳以上が過半とはなっているが、小学生までの子どものいる人も少なくない。職業では、会社員が30.7%でこの地域ではもっとも多く、次に対象者に女性が多いこともあり、無職が26.5%と続いている。出身地では市内は38.8%と比較的少なく、隣接市町村の34.7%と大きなちがいはない。「県内」も他の地域にくらべて多い。居住歴では新旧入り混ったところとなっているが、20年以上は32.7%と、ほぼ3人に1人である。居住形態は、57.1%が公営アパートとなっているのが他との大きなちがいとなっており、自家(持家)はわずか10.2%、1割にすぎない。

(地域H)

年齢では20歳代から50歳代までそれぞれ20%代と平均しており、比較的若い年代の多い地域となっている。配偶者のいる人が91.4%と地域Aに次いでいる。子どもの年齢も小中学生の割合が他の地域にくらべて多くなっている。学歴では義務教育卒が22.9%と少なく、逆に短大・高専、大学卒は25.7%と他にくらべてもっとも高い割合となっている。職業では公務員が37.1%で、会社員が22.8%と続いている。出身地は、市内と隣接市町村が共にほぼ3人に1人の割合、県外が25.7%と高い割合を占めているのが特徴といえる。居住歴は20年未満がほとんどで、10年未満が54.3%、10年から20年未満が37.1%となっており、昭和30年代以降に急速に宅地化してきたところといえよう。居住形態は自家(持家)が62.8%と低くはないが、民間アパートも14.3%と比較的多くなっている。

より詳細には以下の表のとおりとなっている。

表2 性別 (%)

項目	地域	A	B	C	D	E	F	G	H	計
男		72.2	74.2	76.8	74.0	76.5	72.1	55.1	71.4	251(71.3)
女		27.8	25.8	23.2	24.0	23.5	27.9	44.9	28.6	100(28.4)
不明		0	0	0	2.0	0	0	0	0	1(0.3)
計 (人)		54	31	56	50	34	43	49	35	352(100.0)

表3 年齢 (%)

項目	地域	A	B	C	D	E	F	G	H	計
20歳代		11.1	12.9	7.1	6.0	5.9	0	8.2	20.0	30(8.5)
30歳代		35.2	22.6	14.3	6.0	20.6	7.0	18.4	20.0	63(17.9)
40歳代		33.3	25.7	25.0	34.0	20.6	32.5	32.6	25.7	103(29.2)
50歳代		18.5	19.4	35.7	32.0	29.4	28.0	16.3	22.9	90(25.6)
60歳代以上		1.9	19.4	17.9	20.0	23.5	32.5	24.5	11.4	65(18.5)
不明		0	0	0	2.0	0	0	0	0	1(0.3)
計 (人)		54	31	56	50	34	43	49	35	352(100.0)

表4 配偶者 (%)

項目	地域	A	B	C	D	E	F	G	H	計
いる		94.5	71.0	82.1	88.0	76.5	81.4	73.5	91.4	292(83.0)
いない		5.5	29.0	17.9	10.0	20.6	18.6	24.5	2.9	55(15.6)
不明		0	0	0	2.0	2.9	0	2.0	5.7	5(1.4)
計 (人)		54	31	56	50	34	43	49	35	352(100.0)

表5 子どもの年齢

項目	地域	A	B	C	D	E	F	G	H	計
0～5歳		12	6	5	4	4	1	8	8	48
6～11歳		23	2	6	1	2	2	6	7	49
12～14歳		2	1	5	2	8	6	2	2	28
15歳以上		16	18	35	40	15	30	29	15	198
不明		4	4	7	4	8	4	6	3	40
計 (人)		57	31	58	51	37	43	51	35	363

表6 学歴 (%)

項目	地域	A	B	C	D	E	F	G	H	計
小・中学校(旧制高小)		16.7	54.9	44.6	74.0	55.9	55.8	53.1	22.9	165(46.8)
高校(旧制中)		59.2	38.7	35.7	20.0	29.5	32.6	36.7	45.7	132(37.5)
短大・高専(旧制専門学校)		9.3	0	3.6	4.0	2.9	7.0	2.0	5.7	16(4.6)
大学(旧制高校・大学・大学院)		14.8	3.2	14.3	0	8.8	2.3	8.2	20.0	32(9.1)
不明		0	3.2	1.8	2.0	2.9	2.3	0	5.7	7(2.0)
計 (人)		54	31	56	50	34	43	49	35	352(100.0)

表7 職 業 (%)

項目	地域	A	B	C	D	E	F	G	H	計
ほとんど農業		0	0	23.2	58.0	0	0	2.0	0	43(12.2)
会社員		35.2	22.6	26.8	14.0	38.2	20.9	30.7	22.8	93(26.4)
自営業		5.5	25.7	8.9	2.0	29.5	20.9	10.2	8.6	44(12.5)
公務員		22.2	22.6	10.7	12.0	5.9	16.3	10.2	37.1	58(16.5)
自由業		1.9	9.7	5.4	0	8.8	7.0	6.1	2.9	17(4.8)
無職		22.2	12.9	14.3	10.0	11.8	25.5	26.5	22.8	65(18.5)
その他		13.0	6.5	8.9	2.0	2.9	4.7	10.2	2.9	24(6.8)
不明		0	0	1.8	2.0	2.9	4.7	4.1	2.9	8(2.3)
計 (人)		54	31	56	50	34	43	49	35	352(100.0)

表8 出身地 (%)

項目	地域	A	B	C	D	E	F	G	H	計
市内		27.8	51.7	46.4	74.0	53.0	43.5	38.8	34.3	166(47.2)
隣接市町村		29.6	29.0	26.8	18.0	14.7	34.8	34.7	34.3	98(27.8)
県内		24.1	16.1	14.3	4.0	14.7	4.7	16.3	5.7	45(12.8)
県外		18.5	3.2	10.7	0	14.7	4.7	6.1	25.7	36(10.2)
不明		0	0	1.8	4.0	2.9	2.3	4.1	0	7(2.0)
計 (人)		54	31	56	50	34	43	49	35	352(100.0)

表9 居住歴 (%)

項目	地域	A	B	C	D	E	F	G	H	計
5年未満		77.8	9.7	10.7	2.0	11.8	2.3	16.3	34.3	77(21.9)
5~10年未満		18.5	25.8	35.7	4.0	14.7	14.0	20.4	20.0	68(19.3)
10~20年未満		3.7	29.0	8.9	2.0	11.8	14.0	30.6	37.1	55(15.6)
20年以上		0	35.5	42.9	90.0	58.8	69.7	32.7	2.9	147(41.8)
不明		0	0	1.8	2.0	2.9	0	0	5.7	5(1.4)
計 (人)		54	31	56	50	34	43	49	35	352(100.0)

表10 居住形態 (%)

項目	地域	A	B	C	D	E	F	G	H	計
自家(持家)		94.4	64.5	80.3	94.0	44.1	58.2	10.2	62.8	230(65.3)
借家		5.6	22.6	14.3	2.0	47.1	39.5	24.5	2.9	65(18.5)
間借・下宿・住み込み・寮		0	0	0	2.0	0	0	0	2.9	2(0.6)
公営アパート		0	3.2	0	0	0	0	57.1	5.7	31(8.8)
民間アパート		0	9.7	0	0	5.9	0	0	14.3	10(2.8)
その他		0	0	3.6	0	0	0	6.1	11.4	9(2.6)
不明		0	0	1.8	2.0	2.9	2.3	2.1	0	5(1.4)
計 (人)		54	31	56	50	34	43	49	35	352(100.0)

2. 結果と傾向

(1) 地域志向性

問5 あなたはいまの生活の場(居住地)を住みよいところだとおもいますか。

1. 住みよい	2. どちらかといえば住みよい
3. どちらかといえば住みにくい	4. 住みにくい

表11 (%) (%)

項目	地域	%								%		
		A	B	C	D	E	F	G	H	計	男	女
1		46.3	32.3	26.8	44.0	35.3	41.9	30.6	34.3	129(36.7)	37.6	34.3
2		46.3	48.4	50.0	28.0	50.0	37.2	53.1	42.8	156(44.3)	42.0	50.0
3		5.5	16.1	19.6	22.0	11.8	16.3	16.3	22.9	57(16.2)	18.0	11.8
4		1.9	3.2	3.6	6.0	2.9	4.6	0	0	10(2.8)	2.4	3.9
不	明	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	(人)	54	31	56	50	34	43	49	35	352(100.0)	250	102

問8 あなたはふだん次のような点で、どの程度満足されていますか。

イ、仕事	1. 大いに満足	2. まあ満足	3. やや不満	4. 大いに不満	5. なし
ロ、家庭	1. 大いに満足	2. まあ満足	3. やや不満	4. 大いに不満	
ハ、収入	1. 大いに満足	2. まあ満足	3. やや不満	4. 大いに不満	
ニ、生活環境	1. 大いに満足	2. まあ満足	3. やや不満	4. 大いに不満	

表12 (%) (%)

項目	地域	%								%			
		A	B	C	D	E	F	G	H	計	男	女	
イ	1	7.4	12.9	3.6	14.0	11.8	16.3	8.2	2.9	33(9.4)	9.6	8.8	
	2	66.6	54.8	68.0	60.0	52.9	51.1	53.0	60.0	208(59.0)	62.8	50.0	
	3	16.7	16.1	21.4	14.0	17.7	16.3	20.4	17.1	62(17.6)	16.8	19.6	
	4	3.7	0	0	0	0	0	8.2	2.9	7(2.0)	1.6	2.9	
	5	5.6	6.5	3.6	4.0	2.9	7.0	8.2	11.4	21(6.0)	3.2	12.8	
	不	明	0	9.7	3.6	8.0	14.7	9.3	2.0	5.7	21(6.0)	6.0	5.9
計	(人)	54	31	56	50	34	43	49	35	352(100.0)	250	102	
ロ	1	25.9	9.7	19.6	28.0	14.7	27.9	22.5	22.9	78(22.2)	22.8	20.6	
	2	70.4	64.5	73.2	54.0	67.6	58.2	61.2	71.4	229(65.0)	65.6	63.7	
	3	3.7	16.1	5.4	6.0	5.9	11.6	8.2	0	24(6.8)	5.6	9.8	
	4	0	0	1.8	2.0	0	0	2.0	0	3(0.9)	0.4	2.0	
	不	明	0	9.7	0	10.0	11.8	2.3	6.1	5.7	18(5.1)	5.6	3.9
	計	(人)	54	31	56	50	34	43	49	35	352(100.0)	250	102
ハ	1	3.7	0	0	0	5.9	4.7	4.1	2.9	9(2.6)	1.6	4.9	
	2	55.6	35.5	41.1	44.0	32.4	51.1	38.7	45.7	154(43.7)	40.4	52.0	
	3	29.6	41.9	48.2	34.0	44.1	32.5	28.6	31.4	127(35.1)	38.8	29.4	
	4	11.1	12.9	8.9	12.0	8.8	7.0	24.5	14.3	44(12.5)	13.2	10.8	
	不	明	0	9.7	1.8	10.0	8.8	4.7	4.1	5.7	18(5.1)	6.0	2.9
	計	(人)	54	31	56	50	34	43	49	35	352(100.0)	250	102
ニ	1	25.9	6.5	8.9	8.0	2.9	9.3	12.2	0	36(10.2)	9.6	11.8	
	2	66.7	64.4	64.3	56.0	50.1	62.8	59.3	62.9	215(61.1)	60.8	61.8	
	3	7.4	19.4	25.0	22.0	35.3	25.6	20.4	31.4	79(22.4)	23.6	19.6	
	4	0	3.2	1.8	6.0	2.9	0	2.0	0	7(2.0)	1.6	2.9	
	不	明	0	6.5	0	8.0	8.8	2.3	6.1	5.7	15(4.3)	4.4	3.9
	計	(人)	54	31	56	50	34	43	49	35	352(100.0)	250	102

問9 今後あなたの生活は、全体としてどうなるとおもいますか。

1. もっとよくなる	2. 変わらない	3. 悪くなる
4. わからない		

表13 (地域) (%) (計) (%)

項目	地域	A	B	C	D	E	F	G	H	計	男	女
1		22.2	19.4	25.0	20.0	26.5	9.3	28.6	20.0	76(21.6)	23.6	16.7
2		42.6	54.7	44.6	42.0	35.3	46.6	36.7	60.0	157(44.6)	46.0	41.1
3		14.8	6.5	3.6	16.0	8.8	11.6	10.2	5.7	35(9.9)	12.0	4.9
4		20.4	19.4	25.0	20.0	29.4	32.5	24.5	14.3	82(23.3)	18.0	36.3
不 明		0	0	1.8	2.0	0	0	0	0	2(0.6)	0.4	1.0
計 (人)		54	31	56	50	34	43	49	35	352(100.0)	250	102

問10 あなたは、あなたのお宅が、会津若松市の中で次の五つの層のどれにあたるとおもいますか。 どれに

1. 上	2. 中の上	3. 中の下	4. 下の上
5. 下の下			

表14 (地域) (%) (計) (%)

項目	地域	A	B	C	D	E	F	G	H	計	男	女
1		1.9	0	1.8	0	0	2.3	0	0	3(0.9)	0.4	2.0
2		31.5	3.2	10.7	20.0	23.5	16.3	20.4	34.3	71(20.2)	18.4	24.5
3		44.4	58.0	51.8	54.0	44.1	44.3	42.9	48.5	170(48.3)	48.8	47.0
4		18.5	25.8	23.2	18.0	26.5	32.5	20.4	11.4	77(21.8)	24.0	16.7
5		0	6.5	10.7	6.0	5.9	2.3	10.2	2.9	20(5.7)	5.2	6.9
不 明		3.7	6.5	1.8	2.0	0	2.3	6.1	2.9	11(3.1)	3.2	2.9
計 (人)		54	31	56	50	34	43	49	35	352(100.0)	250	102

問11 あなたはこれからもずっと会津若松市に住むつもりですか。それともよそに移りたいとおもいますか。

1. ずっとここに住むつもり	2. よそに移りたい	3. わからない
----------------	------------	----------

表15 (地域) (%) (計) (%)

項目	地域	A	B	C	D	E	F	G	H	計
1		72.2	77.4	92.0	85.3	79.0	75.5	57.1	57.1	272(77.3)
2		9.3	6.5	8.9	2.0	5.9	4.7	8.2	28.6	31(8.8)
3		18.5	16.1	14.3	6.0	8.8	16.3	16.3	14.3	49(13.9)
不 明		0	0	0	0	0	0	0	0	0
計 (人)		54	31	56	50	34	43	49	35	352(100.0)

(2) 町内会へのかかわり

問13 あなたはあなたの町内会長（自治会長）の名前をご存じですか。

1. 知っている 2. 知らない

表16 (%)

項目	地域	A	B	C	D	E	F	G	H	計
1		75.9	83.9	80.3	94.0	97.1	100.0	91.8	82.9	309(87.8)
2		24.1	16.1	17.9	6.0	2.9	0	8.2	17.1	42(11.9)
不 明		0	0	1.8	0	0	0	0	0	1(0.3)
計	(人)	54	31	56	50	34	43	49	35	352(100.0)

問14 あなたは町内のあなたの組（班）にどのような世帯があるかご存じですか。又その世帯内の方についてはいかがですか。

イ、世帯名 1. ほとんど知っている 2. かなりわかる 3. ほとんど知らない
 ロ、世帯員 1. ほとんど知っている 2. かなりわかる 3. ほとんど知らない
 (家族員)

表17 (%)

項目	地域	A	B	C	D	E	F	G	H	計
イ	1	44.4	58.1	75.0	80.0	52.9	72.1	71.4	42.8	223(63.3)
	2	44.4	25.8	16.1	16.0	41.2	18.6	18.4	40.0	94(26.7)
	3	1.2	12.9	8.9	2.0	5.9	9.3	10.2	14.3	32(9.1)
	不 明	0	3.2	0	2.0	0	0	0	2.9	3(0.9)
計	(人)	54	31	56	50	34	43	49	35	352(100.0)
ロ	1	20.4	25.8	58.9	70.0	35.3	53.5	46.9	31.4	156(44.3)
	2	48.1	38.7	25.0	24.0	41.1	37.2	28.6	40.0	122(34.7)
	3	31.5	25.8	16.1	2.0	17.7	9.3	20.4	25.7	64(18.2)
	不 明	0	9.7	0	4.0	5.9	0	4.1	2.9	10(2.8)
計	(人)	54	31	56	50	34	43	49	35	352(100.0)

問15 町内で寄付や協力を求められることがあります。あなたは、それに応じますか。

1. すすんで応じる 2. しかたなく応じていることが多い
 3. 内容によって判断して応じている 4. できるだけ応じない
 5. 応じないことにしている

表18 (%)

項目	地域	A	B	C	D	E	F	G	H	計
1		22.2	32.3	26.8	26.0	23.5	37.2	40.8	22.9	102(29.0)
2		29.6	19.4	26.8	26.0	11.8	20.9	16.3	28.6	81(23.0)
3		48.2	45.1	42.8	44.0	64.7	39.6	38.8	48.5	161(45.6)
4		0	0	1.8	0	0	0	4.1	0	3(0.9)
5		0	3.2	1.8	0	0	0	0	0	2(0.6)
不 明		0	0	0	4.0	0	2.3	0	0	3(0.9)
計	(人)	54	31	56	50	34	43	49	35	352(100.0)

問16 あなたは町内会の運営について満足されていますか。それとも何か不満な点がありますか。

1. 大いに満足	2. まあ満足	3. やや不満
4. 大変不満	5. その他	

表19 (%)

項目	地域	A	B	C	D	E	F	G	H	計
1		0	16.1	3.6	4.0	17.7	9.3	6.1	0	22(6.3)
2		68.5	54.8	62.4	64.0	73.6	69.8	71.5	57.1	231(65.6)
3		24.0	22.6	25.0	22.0	2.9	18.6	16.3	37.1	75(21.3)
4		1.9	0	1.8	4.0	2.9	0	2.0	0	6(1.7)
5		5.6	6.5	5.4	2.0	2.9	0	4.1	2.9	13(3.7)
不	明	0	0	1.8	4.0	0	2.3	0	2.9	5(1.4)
計	(人)	54	31	56	50	34	43	49	35	352(100.0)

問17 一般に町内会のはたす役割としてつぎのような事項があげられます。あなたにとって、もっとも重要と思われるものは何でしょうか。

1. 町内の親睦・精神的まとまり
2. 防犯・保健衛生などの共同防衛のはたらき
3. 下水・街灯・道路の管理など環境整備のはたらき
4. 県や市からの連絡・伝達のはたらき
5. 行政への陳情・要求をすること
6. その他

表20 (%)

項目	地域	A	B	C	D	E	F	G	H	計
1		48.1	58.0	48.2	42.0	64.7	55.8	45.0	37.1	173(49.2)
2		14.8	6.5	12.5	10.0	17.7	16.3	16.3	8.6	46(13.1)
3		16.7	22.6	21.4	14.0	11.8	9.3	16.3	35.3	63(17.8)
4		14.8	12.9	10.7	22.0	2.9	14.0	12.2	5.7	44(12.5)
5		3.7	0	5.4	6.0	0	2.3	2.0	5.7	12(3.4)
6		0	0	0	0	0	0	4.1	0	2(0.6)
不	明	1.9	0	1.8	6.0	2.9	2.3	4.1	8.6	12(3.4)
計	(人)	54	31	56	50	34	43	49	35	352(100.0)

(3) 自主性

問18 もし地域で共同作業や地域活動、行事などが行なわれることがあれば、あなたはこれに参加したいと思いますか。

1. すすんで参加する	2. 都合がつけば参加する
3. あまり参加したくない	4. 参加しようとは思わない
5. わからない	

表21

(%)

項目	地域	A	B	C	D	E	F	G	H	計
1		25.9	25.8	35.7	50.0	29.5	* 46.6	36.7	28.6	125(35.5)
2		64.8	67.4	60.7	42.0	64.7	46.5	55.2	59.9	201(57.1)
3		7.4	0	1.8	2.0	2.9	2.3	6.1	8.6	14(4.0)
4		0	3.2	1.8	0	2.9	0	2.0	0	4(1.1)
5		1.9	3.2	0	2.0	0	2.3	0	2.9	5(1.4)
不	明	0	0	0	4.0	0	2.3	0	0	3(0.9)
計	(人)	54	31	56	50	34	43	49	35	352(100.0)

問22 会津若松では、「環境問題を考える市民会議」が新たにはじまろうとしています。
このことをごぞんじですか。

- | | |
|----------|---------|
| 1. 知っている | 2. 知らない |
|----------|---------|

表22

(%)

項目	地域	A	B	C	D	E	F	G	H	計
1		29.6	41.9	44.6	32.0	41.2	39.5	26.5	25.7	123(34.9)
2		70.4	58.1	55.4	58.0	58.8	58.2	73.5	71.4	222(63.1)
不	明	0	0	0	10.0	0	2.3	0	2.9	7(2.0)
計	(人)	54	31	56	50	34	43	49	35	352(100.0)

問23 あなたは、既にスタートしている「文化」「雪」を考える市民会議をも含め、これらの「市民会議」についてどうお考えでしょうか。

- | |
|---|
| 1. 非常に関心があり、できれば自分も参加して積極的に考えていきたい。 |
| 2. 直接参加できなくても、どのようなことが問題とされているのかぜひ知りたい。 |
| 3. 重要な問題であることはわかるが、自分から積極的にかかわる気持ちはない。 |
| 4. 重要なことはわかるが、行政ペースにまきこまれるという感じがする。 |
| 5.それほど重要性も感じないし関心もない。 |
| 6. その他 |

表23

(%)

項目	地域	A	B	C	D	E	F	G	H	計
1		5.6	6.5	5.4	6.0	0	7.0	4.1	0	16(4.6)
2		57.3	61.3	53.3	62.0	61.7	60.4	38.8	59.9	199(56.4)
3		16.7	12.9	12.5	10.0	17.7	25.6	28.6	25.7	65(18.4)
4		13.0	6.5	12.5	6.0	5.9	2.3	10.2	2.9	28(8.0)
5		7.4	3.2	7.1	4.0	11.8	4.7	6.1	5.7	22(6.3)
6		0	0	3.6	6.0	2.9	0	2.0	2.9	8(2.3)
不	明	0	9.7	3.6	6.0	0	0	10.2	2.9	14(4.0)
計	(人)	54	31	56	50	34	43	49	35	352(100.0)

(4) 連 帯 性

問1 「近所づきあい」について、あなたはどのようなあり方をもっとも望ましいとおもいますか。

- | |
|-----------------------------------|
| 1. ふだんいろいろのことをうちとけて話したり相談する。 |
| 2. いろいろな人と広く交流はしてもお互いの生活にはたちいらない。 |
| 3. 気のあう人とだけうちとけて話したり相談したりできる。 |
| 4. 必要最低限のことだけにかぎるのがよい。 |

表24 (%) (%)

項目	地域	%								%		
		A	B	C	D	E	F	G	H	計	男	女
1		14.8	29.0	16.1	26.0	20.6	20.9	16.3	22.9	71(20.2)	20.0	20.6
2		55.5	48.4	58.9	48.0	50.0	48.8	40.9	60.0	181(51.3)	52.8	48.0
3		20.4	9.7	12.5	14.0	14.7	18.6	20.4	17.1	57(16.2)	14.4	20.6
4		9.3	12.9	10.7	10.0	14.7	11.6	20.4	0	40(11.4)	11.6	10.8
不 明		0	0	1.8	2.0	0	0	2.0	0	3(0.9)	1.2	0
計 (人)		54	31	56	50	34	43	49	35	352(100.0)	250	102

問2 では実際にはどの程度の近所づきあいをされていますか。

- | |
|-----------------------------------|
| 1. 心をうちわってぎっくばらんに話したり相談しあう。 |
| 2. いろいろな人と広く交流はしてもお互いの生活にはたちいらない。 |
| 3. 気のあう人とだけうちとけて話しをしたり相談している。 |
| 4. あいさつ程度の必要最低限のことにかぎっている。 |
| 5. その他 (近所づきあいはしていない) |

表25 (%) (%)

項目	地域	%								%		
		A	B	C	D	E	F	G	H	計	男	女
1		5.6	16.1	10.7	20.0	5.9	4.7	12.2	8.6	37(10.5)	12.0	6.9
2		27.8	45.1	39.3	38.0	38.2	51.1	40.9	20.0	132(37.5)	38.8	34.3
3		33.3	19.4	25.0	32.0	32.4	23.3	26.5	28.6	98(27.8)	24.0	37.2
4		33.3	19.4	21.4	10.0	23.5	20.9	20.4	42.8	83(23.6)	24.4	21.6
5		0	0	1.8	0	0	0	0	0	1(0.3)	0.4	0
不 明		0	0	1.8	0	0	0	0	0	1(0.3)	0.4	0
計 (人)		54	31	56	50	34	43	49	35	352(100.0)	250	102

問3 あなたは、その近所づきあいに満足していますか。

- | | | |
|-------|---------|---------|
| 1. 満足 | 2. まあ満足 | 3. やや満足 |
| 4. 不満 | | |

表26

(%)

(%)

項目	地域	地域								計		
		A	B	C	D	E	F	G	H	男	女	
1		14.8	25.8	17.9	44.0	8.8	11.6	20.4	8.6	69(19.6)	20.4	17.7
2		66.6	58.1	64.2	52.0	79.4	69.7	61.2	57.1	223(63.3)	61.2	68.6
3		14.8	12.9	12.5	2.0	11.8	14.0	14.3	31.4	48(13.6)	15.6	8.8
4		1.9	3.2	3.6	2.0	0	4.7	4.1	0	9(2.6)	2.0	3.9
不 明		1.9	0	1.8	0	0	0	0	2.9	3(0.9)	0.8	1.0
計 (人)		54	31	56	50	34	43	49	35	352(100.0)	250	102

問4 よく「近所のでまえ」とか「世間てい」ということがいわれます。このことに気がつかれますか。

- | | |
|----------------|---------------|
| 1. かなり気をつかう。 | 2. 少し気をつかう。 |
| 3. あまり気をつかわない。 | 4. 全く気をつかわない。 |

表27

(%)

(%)

項目	地域	地域								計		
		A	B	C	D	E	F	G	H	男	女	
1		5.6	16.1	17.9	10.0	8.8	18.6	14.3	8.6	44(12.5)	12.8	11.8
2		57.4	32.3	49.9	46.0	50.1	41.9	32.7	51.4	161(45.7)	42.4	53.8
3		37.0	41.9	26.8	38.0	38.2	37.2	48.9	40.0	134(38.1)	40.4	32.4
4		0	9.7	3.6	6.0	2.9	2.3	4.1	0	12(3.4)	4.0	2.0
不 明		0	0	1.8	0	0	0	0	0	1(0.3)	0.4	0
計 (人)		54	31	56	50	34	43	49	35	352(100.0)	250	102

問12 つぎの地域生活についての考えかたのうちで、実際あなたの生活の仕方にもっとも近いものをえらんでください。

- | |
|--|
| 1. その土地にはその土地なりのしきたりがあるので、できるだけこれにしたがって人びととの和を大切にしながら行動する。 |
| 2. この土地にはさして関心や愛着はないので、地元の熱心な人たちにまかせ、自分からかわることはしない。 |
| 3. 積極的に相互に協力し、自ら行動するということではできないが、自分の生活上の不満・要求は市政に、その他に権利として主張すべきだ。 |
| 4. 地域は生活のよりどころであるから、生活上の権利の主張と同時に、相互に協力し合いながら自らも住みよくするよう行動する。 |

表28

(%)

(%)

項目	地域	地域								計		
		A	B	C	D	E	F	G	H	男	女	
1		24.0	32.3	42.9	48.0	41.2	37.2	46.9	31.4	135(38.4)	36.0	44.1
2		9.3	6.5	0	0	0	7.0	10.2	5.7	17(4.8)	4.8	4.9
3		13.0	19.4	10.7	6.0	11.8	9.3	14.3	17.1	43(12.2)	11.6	13.7
4		53.7	38.6	44.6	46.0	47.0	46.5	28.6	39.9	153(43.5)	46.0	37.3
不 明		0	3.2	1.8	0	0	0	0	5.7	4(1.1)	1.6	0
計 (人)		54	31	56	50	34	43	49	35	352(100.0)	250	102

(5) 生活 関 心

問6 あなたの日常生活で、いちばんいきがいをを感じるのはつぎのうちどれですか。

1. やりがいのある仕事・職場
2. 家族だんらんするとき・子どもの成長
3. スポーツ・娯楽・旅行など、趣味的な活動
4. 社会に役立つ活動
5. 心から話しあえる友人・隣人
6. その他

表29 (%) (%)

項目	地域									計	
	A	B	C	D	E	F	G	H	計	男	女
1	31.5	38.8	28.6	24.0	35.3	23.3	16.3	39.9	101(28.7)	34.0	15.7
2	48.1	29.0	48.2	56.0	44.2	41.8	55.2	35.3	162(46.1)	43.2	52.9
3	11.1	9.7	8.9	0	2.9	7.0	10.2	20.0	30(8.5)	7.2	11.8
4	0	16.1	3.6	10.0	8.8	9.3	8.2	0	23(6.5)	7.6	3.9
5	1.9	3.2	8.9	6.0	5.9	18.6	6.1	0	23(6.5)	4.4	11.8
6	7.4	3.2	1.8	2.0	2.9	0	2.0	2.9	10(2.8)	2.4	3.9
不 明	0	0	0	2.0	0	0	2.0	2.9	3(0.9)	1.2	0
計 (人)	54	31	56	50	34	43	49	35	352(100.0)	250	102

問7 今後さらにいきがいを高めるために、つぎのうちなにをいちばんつよくのぞみますか。

1. 衣食住の充実
2. 雇用・生活の安定
3. いっそうの心のふれあい・交流
4. 能力・知識・技術のかくとく
5. 創造的な活動・能力の発揮
6. その他

表30 (%) (%)

項目	地域									計	
	A	B	C	D	E	F	G	H	計	男	女
1	11.1	12.9	12.5	32.0	29.5	25.6	24.5	17.1	72(20.5)	20.0	21.6
2	37.0	25.8	33.9	24.0	23.5	32.5	38.8	28.6	110(31.2)	29.2	36.2
3	16.7	22.6	19.6	22.0	23.5	25.6	14.3	25.7	73(20.6)	21.2	19.6
4	13.0	25.8	16.1	6.0	14.7	9.3	12.2	14.3	47(13.4)	13.2	13.7
5	22.2	9.7	14.3	10.0	8.8	4.7	8.2	5.7	39(11.1)	12.8	6.9
6	0	3.2	3.6	2.0	0	2.3	2.0	5.7	8(2.3)	2.4	2.0
不 明	0	0	0	4.0	0	0	0	2.9	3(0.9)	1.2	0
計 (人)	54	31	56	50	34	43	49	35	352(100.0)	250	102

問26 今までの経験からして、会津若松市で生活するさい、日常どのような人間関係を大切にしていくことが最も必要だとも思いますか。

1. 近所づきあい
2. 職場でのつきあい
3. 親類づきあい
4. 親しい友人・知人・仲間づきあい
5. 目上の人や恩師・有力者とのつきあい
6. 広く社会一般の人との関係

表31

(%)

項目	地域	A	B	C	D	E	F	G	H	計
1		46.2	54.8	46.5	36.0	41.2	34.9	28.6	42.9	144(40.9)
2		3.7	6.5	7.1	0	2.9	9.3	8.2	11.4	21(6.0)
3		5.6	3.2	3.6	4.0	2.9	2.3	4.1	2.9	13(3.7)
4		27.8	22.6	19.6	22.0	23.5	16.3	32.6	11.4	79(22.4)
5		0	0	0	4.0	0	2.3	2.0	0	4(1.1)
6		16.7	12.9	23.2	34.0	29.5	34.9	22.5	25.7	88(25.0)
不	明	0	0	0	0	0	0	2.0	5.7	3(0.9)
計	(人)	54	31	56	50	34	43	49	35	352(100.0)

(6) 運 動

問19 あなたはこの5年ほどの間に、この地域の問題や若松市全体の問題などを解決するために、何らかの活動をされたことがありますか。

- | | |
|-------|-------|
| 1. ある | 2. ない |
|-------|-------|

表32

(%)

項目	地域	A	B	C	D	E	F	G	H	計
1		16.7	35.5	33.9	46.0	32.4	34.9	20.4	34.3	110(31.3)
2		83.3	64.5	66.1	50.0	67.6	60.4	77.6	62.8	236(67.0)
不	明	0	0	0	4.0	0	4.7	2.0	2.9	6(1.7)
計	(人)	54	31	56	50	34	43	49	35	352(100.0)

問20 (問19で「ある」と答えた方) どのような方法でされましたか。いくつでもえらんでください。

- | | |
|---------------------------|-------------------|
| 1. 市役所で直接(電話・投書も含む)申し入れた。 | 2. 陳情・請願をした。 |
| 3. 運動の組織づくり・署名集めをした。 | 4. マスコミに訴えた。 |
| 5. 議員にたのんだ。 | 6. 町内会・自治会に申し入れた。 |
| 7. その他の団体にたのんだ。 | 8. 地元有力者にたのんだ。 |
| 9. その他 | |

表33

(人)

項目	地域	A	B	C	D	E	F	G	H	計 (%)
1		3	6	7	8	5	8	8	7	52(22.7)
2		3	2	10	11	2	6	5	2	41(18.0)
3		0	2	5	5	1	1	2	1	17(7.5)
4		2	0	1	0	0	0	1	0	4(1.8)
5		2	5	8	13	4	6	5	4	47(20.6)
6		5	5	4	10	4	2	3	6	39(17.1)
7		1	1	4	4	2	1	0	1	14(6.1)
8		0	0	1	3	1	2	1	2	10(4.4)
不	明	0	2	1	0	0	1	0	0	4(1.8)
計	(人)	16	23	41	54	19	27	25	23	228(100.0)

(7) 政治・行政への関心

問21 あなたは「市政だより」を読んでいますか。

- | | |
|---------------|------------------|
| 1. くわしく読んでいる。 | 2. 関心のあるところだけ読む。 |
| 3. とくとき読む。 | 4. ほとんど読まない。 |
| | 5. 全く読まない。 |

表34

(%)

項目	地域	A	B	C	D	E	F	G	H	計
1		38.9	41.9	44.6	50.0	32.4	53.5	51.0	37.1	156(44.3)
2		50.0	41.9	46.5	42.0	61.7	34.9	32.7	48.6	156(44.3)
3		11.1	16.2	7.1	4.0	5.9	9.3	16.3	11.4	35(10.0)
4		0	0	0	0	0	0	0	0	0
5		0	0	1.8	0	0	0	0	0	1(0.3)
不明		0	0	0	4.0	0	2.3	0	2.9	4(1.1)
計	(人)	54	31	56	50	34	43	49	35	352(100.0)

問24 あなたは、会津若松市政が当面どのようなことにもっとも力を注ぐべきだとおもいますか。3つまでえらんでください。

- | | |
|---------------------|-----------------------|
| 1. 学校施設・受験・進学など教育問題 | 2. 保育所・幼稚園の施設・整備 |
| 3. 公民館・図書館などの文化施設活動 | 4. 体育・スポーツ・レクリエーション施設 |
| 5. 工場誘致など就業先の拡張 | 6. 漆器など地場産業の振興 |
| 7. 上下水道・し尿処理 | 8. ゴミ処理 |
| 9. 公衆便所・公衆浴場の整備 | 10. 保健医療（病気・医療費・集団検診） |
| 11. 児童遊園地・公園の建設 | 12. 老人福祉施設 |
| 13. 道路の舗装・整備 | 14. 公営住宅・宅地造成 |
| 15. 除雪・街灯など防災・保安 | 16. 住民との対話 |
| 17. 窓口の親切効率化 | 18. 犯罪・非行の防止 |
| 19. その他 | |

表35

(人)

項目	地域	A	B	C	D	E	F	G	H	計 (%)
1		13	12	12	24	14	18	12	8	113 (11.0)
2		7	7	10	3	6	3	3	6	45(4.4)
3		4	1	4	1	1	4	6	2	23(2.3)
4		14	4	7	3	4	3	3	4	42(4.1)
5		21	13	24	24	11	14	14	10	131 (12.8)
6		4	1	5	2	6	7	4	1	30(2.9)
7		4	9	14	0	11	10	16	9	73(7.1)
8		2	2	5	2	3	3	2	0	19(1.9)
9		4	1	2	3	3	2	4	0	19(1.9)
10		8	8	10	16	7	9	10	7	75(7.3)
11		10	0	4	2	4	3	5	1	29(2.8)
12・13		28	11	20	20	10	18	15	25	147 (14.4)
14		1	4	3	3	5	4	12	3	35(3.4)
15		20	9	20	23	5	8	16	12	113 (11.0)
16		3	1	10	4	1	4	5	0	28(2.7)
17		8	3	9	5	2	7	7	5	46(4.5)
18		9	4	6	6	8	7	8	0	48(4.7)
19		0	1	1	3	0	1	1	1	8(0.8)
計	(人)	160	91	166	144	101	125	143	94	1,024(100.0)

問25 会津若松市の政治について、あなたはどの程度関心をおもちでしょうか。

- | | |
|--------------|----------------|
| 1. 非常に関心がある。 | 2. ある程度は関心がある。 |
| 3. あまり関心がない。 | 4. 全く関心がない。 |

表36 (％)

項目	地域	A	B	C	D	E	F	G	H	計
1		13.0	16.1	30.4	24.0	23.5	16.3	18.4	5.7	67(19.0)
2		62.9	67.8	51.7	66.0	61.8	60.4	57.1	59.9	213(60.5)
3		24.1	12.9	17.9	8.0	11.8	23.3	22.5	28.6	66(18.8)
4		0	0	0	2.0	2.9	0	2.0	2.9	4(1.1)
不明		0	3.2	0	0	0	0	0	2.9	2(0.6)
計	(人)	54	31	56	50	34	43	49	35	352(100.0)

以上の表から、極くかいつまんで若干の特徴を述べることにしよう。

① 地域志向性——地域への定着志向は、全体の77%が「ずっと住むつもり」としており、年齢が高くなるにつれてその意思は高くなっている。地域Hの低さは、この町内に20歳代、県外出身者、公務員、大卒者、民間アパートがそれぞれ多くなっていることから了解できる。

② 町内会へのかかわり——町内会の寄付・協力への対応では、地域AとH及びEで比較的合理的に判断しているといえる。町内会の機能としては、ほぼ2人に1人が「町内の親睦・精神的まとまり」としている。この親睦面に力を注いでいる地域Eでは、表19のように町内会運営に対する会員の満足度が特に高くなっているのが注目される。

③ 自主性——全体としては地域の共同活動・行事などへの積極的参加意思は35.5%と高く、地域DとFとではそれぞれ50%、46.6%と特に高くなっている。居住歴の長い人が多いところである。「市民会議」については全体の6割が強い関心をもっており、特に地域B・D・Fでは7割近くになっている。しかし自分自身も積極的に参加する意思のある人は4.6%と少ない。

④ 連帯性——実際の近所づきあいは、地域Dにおいては親密な関係が強く、A・Hでは逆に最少限の形式的なつきあいが多。農村と新興住宅地との対照的なあり方といえよう。「地域共同体」型(表28の項目1)は地域Dでもっとも多く、次いでGとなっている。「コミュニティ」型(項目4)はAで53.7%と高い。「個我」型(項目3)と「伝統型アノミー」型(項目2)は新興住宅地に多くなっている。

⑤ 生活関心——全体としては「家族だんらんと子ども」に生きがいを感じている人が46.1%ともっとも多く、次に「仕事・職場」の28.7%である。さらに生きがいを高めるためにのぞむこと、としては、「雇用・生活の安定」が31.2%ともっとも高く、次いで「心のふれあい・友情」の20.6%、「衣食住の充実」20.5%と続いている。「心のふれあい・友情」が実生活で弱くなっているということであろうか。日常の人間関係では「近所づきあ

い」を大切にすることが必要、と考える人は4割いる。

⑥ 運動——地域問題解決のための活動については全体の3割が経験をもっている。Dは46%の人が活動経験をもっており、逆にAは83%が経験がないとしている。農家中心の農村で高くなっている。方法としては、「市への申し入れ」「市会議員にたのむ」「陳情・請願」「町内会・自治会への申し入れ」がそれぞれ全体の20%前後の割合を占め多くなっている。

⑦ 政治・行政への関心——「市政だより」は9割の人に読まれている。読み方はいろいろであるにしてもかなり高いといえる。市政への要求では、「道路・老人福祉」（印刷ミスでこの異質の2項目が一緒になっている）がもっとも多く、「就業先拡張」（特に農村）、「教育問題」「防災・保安」と続いている。「政治への関心」では、旧町内会ほど高い関心を示す傾向がある。新興住宅A・Hは「あまり関心がない」が比較的高くなっている。

IV. ま と め

① 近隣の共同・連帯の活動は、旧町内会において活発である。近隣を超えた活動については、高い関心をもちながらも行動にはつながりにくい傾向をもつ。

② 「生活関心」にみられるような「心のふれあい・友情」といった相互のコミュニケーションを求める傾向が町内会の機能にも生じてきている。

③ 「市政だより」は非常に広く読まれており、市の政治に対しても8割が「関心がある」としている。しかし農村での関心が高い。

④ 「地域共同体」型は、同様の設問での他市の調査結果に比較して高い割合となっている。上述の共同・連帯の活動が伝統的な価値を背景とする可能性が強いことを示している。

⑤ とはいえ、近年近隣市町村から市内へ、市街中心から周辺の新興住宅地へ、市内から市外（都市）への人口移動は激しく、それぞれの地域特性に応じた共同と連帯の場と機会が今日改めて強く求められている。

地域を組み合わせた類型、年代、居住形態、居住歴、地域生活観等々の結果に基づいた分析とまとめは今後に残された課題である。

（なお、本報告は文部省昭和53年度科学研究費補助金による研究成果の一部である。）

